

独「反原発」20万人

東日本大震災 犠牲者へ黙とうも

【ベルリン＝弓削雅人】ドイツの主要都市で二十六日、反原発デモが行われた。首都ベルリンなどで約二十万人（主催者発表）が参加。東日本大震災に伴う福島第一原発事故を受け、稼働中の原子炉十七基の延命を

凍結して再検討を進めるメルケル政権へ「脱原発の圧力を強めた。デモは、野党支持者や環境保護団体を中心に、ハンブルク、ミュンヘン、ケルンでも行われ「福島の事故は、われわれに原発をやめろと警告している」と

のスローガンを掲げた。同日午後には、各都市で一斉に日本の震災犠牲者への黙とうがささげられた。一方、ドイツでは二十七日に南西部バーデン

ウィルテンベルク州議会選が開票される。同州は原発が立地し、延命問題が争点に急浮上。緑の党など反原発を掲げる野党への支持が拡大して、連邦政府と同じ組み合わせの州連立与党が政権転落の可能性が強まるなど、国政への影響も必至の情勢だ。

こころした中、一部メディアが、福島原発事故を受け、今月中旬に原発延命の凍結を協議したメルケル首相、関係閣僚と州首相との会合で、フリーデレ経済相が「延命凍結は安全性優先の判断ではなく、選挙対策だった」と認める発言をしていたと報道。与党の原発政策をめぐる動きが激しくなっている。



26日、ドイツ西部ケルンで、「すべての原発を停止させよ」と福島（の事故）は警告している」との横断幕を掲げ、デモを行う原発反対派＝AP